

# HUMAN RIGHTS

## 市民参加の手づくり講座

### 「小・中学生夏休み講座～生きるってすてき！」

ワム  
茨木市立男女共生センター ローズWAM

茨木市立男女共生センター ローズWAMは、市民とともに作る男女共同参画社会をめざし、2000年の開館当初から、事業・情報・相談・保育・舞台の5グループある市民ボランティア（スタッフとアシスタント、2003年度は216人登録）によって運営を支えていただいています。全体研修を年3回、各グループ研修を年5回と、それに加えて自主研修を重ね、担当業務の技術・能力の向上も図っています。

#### ●事業グループが講座を企画し、進行する

その1つである事業グループが、この夏に実施した「小・中学生夏休み講座」について紹介します。

プログラム構成から当日の進行役（ファシリテーター）などをスタッフが職員とともに担当し、アシスタントがグループ研修で学習したことをもとに、自主研修で作成したワークも取り入れた講座としました。

この講座は、子どもの頃から男女共同参画への理解を深め、将来のライフプランについて考えていくきっかけとするため、小学4年生から中学生を対象に、2001年度から毎年度夏休み中に実施しています（週1回・全5回）。今回は、「生きるってすてき！」をメインテーマとしました。また、茨木市人権教育研究協議会男女共生部会からの見学者も受け入れるなど、学校との連携も図りました。

#### ●講座の内容

1回目は「生きるってどういうこと？」をテーマにしたワークショップで、「生きるのに大切なもの」を考える中で、普段当たり前のように思っているものの大切さや、人それぞれの違いがあることなどを感じました。

2回目は「いろんな仕事、いろんな生き方」と題し、青年海外協力隊経験者と女性のバス運転手から、外国での生活や活動してきたこと、仕事に対する思いなどを聴きました。実際の経験から出る思いのこもった話を聴くことができ、自分たちの生活との違いに驚いたり、働くとはどういうことかを考えたりしました。

3回目は、今まで学んだことを活かして、働くこと、大切にしていることなどについて街の人たち



男女共同参画への理解を深めた「夏休み講座」

にインタビューをし、みんながいろいろな思いをもって生きているということを感じました。

4回目は、今まで学んだことをパソコンを使ってまとめました。5回目はそれを使って、舞台上に立ち、市民の皆さんの前で発表しました。また、市民アシスタント作成のワークショップによって、ジェンダーや家族、世界の子どもなどについて考えました。

#### ●子どもたちは考え、感じる

受講後、子どもたちからは「女でも男でもいろんな仕事ができることがわかった」「いろんな生活や考えがあることがわかった」などの感想があり、保護者からも「子どもが今まで知らなかった世界に目を開くことができ、成長したと感じる」という声が寄せられました。「生きる」ということを自分で考えること・感じることを大切にしようというプログラム構成をしましたが、その目的は達成できたのではないかと考えています。子どもたちがこれから生きていく上で、何かの糧に<sup>糧</sup>してもらえたら、大変ありがたいことです。

また、講座にかかわった市民ボランティアにとっても、子どもたちとの交流の中で自分自身を振り返ったり、新しく一歩を踏み出す機会となったり、有意義な時間を過ごすことができました。

ローズWAMでは、これからも、魅力ある講座・事業の実施を通して、市民のみなさんが自分らしく生きることのお手伝いをしていきたいと思っています。

ホームページ <http://www.city.ibaraki.osaka.jp/wam>